

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174100487		
法人名	株式会社 育成		
事業所名	グループホーム育成会 長生の望・灯・楽 (灯ユニット)		
所在地	釧路市大楽毛南4丁目6番8号		
自己評価作成日	平成28年2月6日	評価結果市町村受理日	平成28年3月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigvosyoCd=0174100487-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成28年2月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員の資質の向上を目指し、自己研鑽に繋がるための研修機会の提供と定期的な能力評価、資格取得・研修参加のための事業所の支援に努めています。北海道認知症グループホーム協会に加盟しており、当事業所代表が副会長を務めている事で、情報交換・連携が保たれており、積極的な研修の参加や他事業所や協力団体とのネットワークも構築されています。地域(町内会・家族会・地域包括支援センター等)との協力関係づくりを心がけており、事業所内の行事はもちろんの事、地域の催しへの参加や受入れ体制も整っており、今後も地域に根ざした活動が継続できるように、更には地域包括ケアの基幹になるような働きかけを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

鉄骨造3階建て耐火構造で2階・3階をグループホームとして使用し、1階の多目的ホールを地域住民に開放している。地域との繋がりを大切にして、運動会などの地域行事に積極的に参加し、12周年祭地域交流会には地域住民が約20名参加し、事業所前で行った盆踊りには地域住民が多数参加して交流し、利用者が地域と馴染みの関係を築いて、地域の一員として生活している。避難訓練に地域住民も参加しており、災害時にも地域住民が実際に協力してくれる体制が出来ている。事業所は職員育成に努め、研修参加や資格取得を職員に促し、質の高いケアを心がけている。職員は明るく、職員間の関係も良好で意思の疎通も良く、利用者一人ひとりの思いを共有してケアに努めている。重度化や終末期について指針を設け、早い段階から医療関係者を交えて家族と話し合い確認して、チームで看取りを行う体制の下、看取りを経験した。管理者及び職員は利用者の尊厳とプライバシーを守り、家族を含めた絆を大切にしながら穏やかに暮らせるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は各ユニットや正面玄関に掲示しています。毎朝の申し送りの際に唱和を行い、周知実践に活用しています。また、理念に基づいたケアプランを作成し、実践しながら理念を理解できているかを確認しています。	事業所理念を各ユニットに掲示し、地域住民や利用者が集まる1階フロアには職員が墨で書いて掲示している。管理者と職員は毎朝唱和して理念を理解して、理念に基づいたケアプランを作成し日々の実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	理念にも掲げている通り、地域との交流を大切にし町内会にも加入し協力関係にあります。町内会主催の行事には、利用者が多数参加し、顔なじみの関係も築いています。	町内会に加入し、町内会主催の行事、ミニ運動会には職員と共に参加し、終了後地域住民との交流を大切に、事業所駐車場場で焼肉パーティで懇親を深めている。又、盆踊りを事業所前で行い地域住民が多数参加して交流している。利用者が地域と馴染みの関係を築き、地域の一人として生活している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で定期的に意見交換を行っており、認知症の理解や支援に繋がっています。地域の学生の就業体験や初任者研修・ボランティア養成の実習の受入れを行っています。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の取組みや職員の資質の向上（研修・事故報告等）、課題等を議題に報告・相談し、構成員の方々の意見を参考にサービスに活かすよう心がけています。	地域住民、家族、地域包括支援センター職員などが参加して年6回開催している。利用者状況や事業所の取り組みなどを説明し、連町総合防災訓練に参加した結果を報告して、意見や助言を得て、サービス向上に活かしている。火災訓練に参加した地域住民から貴重な意見を得ている。	運営推進会議でより多くの家族、地域の人たちから意見や助言を得るため、参加しやすい時間帯に開催したり、議題内容を工夫しながら、全家族に開催通知を送付するなどして、出席者を増やしていく事を期待する。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者は、国や道から下りてきた情報や連絡事項等を速やかに通知してくれます。運営推進会議の概要報告書で状況を把握していただき、必要時には確認等の連絡を密に行える関係にあります。	日頃より市の担当者とはメールのやり取りをし、直接出向いて事業所報告や状況を伝え、協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、行動制限を行わないよう取り組んでおり、スタッフが日常のケアの中で実践しています。施錠が必要と思われる時などはスタッフと密に連携を図り、やむを得ない拘束が必要な際は、家族への説明と同意を書面で交わし理解をいただいています。	身体拘束の外部の研修会に参加し、内部研修、カンファレンスなどで外部の情報も職員に伝えて、全員が身体拘束をしないケアに取り組んでいる。やむを得ず拘束が必要な時は、事前に家族に説明し理解を得て同意書ももらっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について内・外部研修によって理解を深める機会を設け、『不適切なケア』についても定期的に現状に無いか確認します。また、職員のメンタルヘルスケアにも留意します。			

グループホーム育成会 長生の望・灯・楽（灯ユニット）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	既存の入居者の中に成年後見制度を利用されている方がいる事で、市の担当者や後見人との連携が保たれています。今後も権利擁護についても理解し必要な援助に活用します。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明は十分にしており、理解をして頂いて締結しております。また、改定、変更がある場合にも、書面等や直接説明しております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には意見箱、アンケート用紙を置いています。また、ご家族の来訪時や電話、手紙などで利用者の近況を報告し、ご家族の要望等も頂きながら、サービスの向上に努めております。	日常の会話などから利用者の意向の把握に努め、家族来訪時に職員は積極的にコミュニケーションを取り、また電話やお便り等で近況を報告して、家族に利用者の状況を知ってもらうことで意見や要望につながるように努めて要望等を得ながら、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	直接、施設長との面談もあるが、定期に開催している幹部会議の場で、スタッフの意見や提案を取り上げ、運営に反映しています。	施設長と個人面談を設けている。カンファレンスの中でも話し合いが行われ、ケアに付いては業務の中でも話し合いを行い管理者は職員の意見を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の実績に応じて、人事考課をし、キャリアパスを設け、向上を持って働けるよう努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修に参加して、研修内容をスタッフ会議や学習会で他のスタッフに情報の共有を図っています。実際に支援の中で実践し、確認、理解し合い、職員のスキルアップに努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北海道認知症グループホーム協会や、その他の団体が開催する研修会や交流会に参加し、サービスの向上に取り組んでおります。また、他事業所との連携が図られており、情報交換や協力関係にあります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者が関わる、支援事業所や医療機関より、情報を提供していただき、ご本人の不安な事、求めている事を、安心して相談できる体制や雰囲気作りに努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者が関わる支援事業所や医療機関より情報を提供していただき、家族との面談の機会を常に行い信頼関係の構築を重視しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用相談や面談の際、必要とされる支援の見極めを行い、求められている支援について、職員全員で話し合い、初期の介護支援計画を立てます。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、個々の能力を活かした役割分担を行っており、ちょっとした工夫を利用者の方から教えて頂く事があります。互いに学び支え合う関係を目指しています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的な連絡や面会、毎月発行の広報誌により、本人の様子を伝えると同時に、本人の要望を家族へ伝えていきます。ホームの行事等がある際には、家族へ案内し、共に過ごす時間を作るよう働きかけています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・知人への電話の取り次ぎや、来訪を快く受けております。ホームでの様子をお伝えするとともに、お互いの情報交換を行いながら理解を深めてより良い関係作りを心がけています。外出への要望には常時対応できる体制に努めています。	通い慣れた美容室を利用し、ミニ運動会・盆踊り・さくら祭りに毎年参加し、近隣の散歩等で近所との馴染みの関係が途切れない様にしている。家族と一緒に外出するときには準備や連絡で支援して、快く送り出している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が互いに助け合い、優しい言葉をかけて、いたわり合って生活を共にしています。時には、トラブルになる事もありますが、スタッフが介入し、話題を変える等工夫し調整を図っています。		

グループホーム育成会 長生の望・灯・楽（灯ユニット）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要とされる対応を行い、相談や近況報告しやすい体制と雰囲気作りを心がけております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いを職員間で共有し支援に努めています。困難な場合は、本人の言動を感じ取る努力を行い検討しております。	利用者とのコミュニケーションを心がけ、思いや暮らし方の意向の把握に努めている。意見表明が困難な場合は、生活歴や家族からの情報で本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の活用や家族からの情報をいただくことで、本人の生活歴やサービス利用の経過把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の残存能力を把握し、体調変化や表情等を観察して、その人なりの暮らしができるよう努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース担当者が本人の生活の要望や家族の意向をうかがい、聞き取りが困難な利用者の思いも理解できるようにセンター方式を活用し介護計画に反映しています。必要な場合は、主治医や訪問看護師からアドバイスを受けられる体制も整えています。	担当者が利用者や家族からの要望や意向を聞き、ケア会議やカンファレンスで話し合いを行い、現状に即した介護計画を作成している。身体状況変化時は主治医からのアドバイスを参考にしその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の中で、体調変化、言動等を介護記録に記録し、職員間で情報共有しながら介護計画の見直しに活かしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期的に家族との情報交換を行い、外出や病院受診の対応を家族や職員が行っています。今後はインフォーマルなサービスの活用にも取り組んでいきます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に積極的に参加し、地域住民との交流を大切にしております。災害時や徘徊の対応など理解と協力をお願いしております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診や緊急時の受診についても家族との連携を図り、情報提供書を作成し適切な医療を受けられるよう支援しています。ほとんどの利用者が主治医の訪問診療を受けられる事で看取りの体制も整っています。	本人、家族の希望に添ったかかりつけ医に受診できるよう支援している。受診は家族と連携して事業所で対応している。月2回の訪問診療と訪問看護師が入り、利用者の希望により皮膚科と歯科医の訪問診療が行われている。	

グループホーム育成会 長生の望・灯・楽（灯ユニット）

自己評価	外部評価	項目	外部評価	
			自己評価	実施状況
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な訪看の際には、日常生活の状況及び治療経過の報告を行い、相談や助言を頂き、日常生活上の健康管理支援に努めております。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には、介護添書を作成し医療機関にお渡しします。家族との連絡も常に行い、定期的な訪問も心がけます。退院の際も、医療との情報交換を行い速やかな受入れ態勢を整えます。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期にむけて事前に本人・家族と看取りについて話し合い、書面にて意向やホームでの対応について説明し同意をいただいています。状態の変化に応じて、家族・医師・訪問看護師・職員等との情報の共有と方針の確認を行います。	契約時時に、指針に沿って利用者や家族に説明し同意を得ている。状況の変化に応じ、家族、医師、看護師等と協議し、看取りなど希望に添えるよう支援している。チームを構築して、実際に看取りを行った。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の緊急マニュアルを作成し、職員が早期対応出来るよう研修会議等で確認しています。AEDを設置し使用方法も講習し分かりやすい使用方法のマニュアルも常備しています。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を想定した訓練を定期的に行っています。少人数での消火、通報、避難誘導をしなければならぬため、訓練には町内会・近隣の方にも参加していただき協力体制にあります。	避難訓練は地域住民も参加し、昼・夜を想定して年2回行っている。災害時に地域住民が協力してくれる体制が出来ている。大楽毛連町の 総合防災訓練(地震発生・津波警報・指定場所に避難)に地域の一人として参加している。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人の人格を尊重し、自尊心を傷つけないように真心で接するように努めています。また、個人情報については、事務所内の書庫にて保管、管理しております。	個々の人格を尊重しながら声かけなどに気をつけ、尊厳や誇りを損ねないケアに努めている。残存能力を活かして生き生きと生活してもらえるように支援している。個人情報は書庫で保管して文書管理に注意している。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	安心できる環境作りをして、日々の会話の中から何を思い何を願い何を求めているかを察する事を心がけています。個々に合わせて対応、説明していきながら、自己決定ができるよう支援しています。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家族のような雰囲気大切に、ご本人のADLに添った思いや希望を優先して、「出来た」、「楽しかった」と喜びを共感し合える支援を心がけています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容師に依頼していますが、本人の希望がある場合は、馴染みの美容室へ出かけます。整容の乱れなど本人の自尊心を傷つけないように、さりげない声かけを心がけています。	

グループホーム育成会 長生の望・灯・楽（灯ユニット）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に合わせて作業を分担し、職員と共に調理・片付け・食事を楽しむ事ができるように心がけています。	利用者は、能力に応じて調理や後片付けを行い、畑で採れた旬の収穫物が食卓に上がり、話に花が咲いて食事を楽しんでいる。外食日と称してお寿司を取り寄せて皆で食べることもあり、また通院の帰りに家族と一緒に外食している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事摂取量を記録し、栄養バランスが保てるよう支援しております。必要に応じて介助を行い、脱水を起こさぬよう、小分けに回数を増やす等、必要な水分量が摂れるよう支援しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施しており、ご自身で出来る方はご自身で、介助が必要な方には義歯、口腔洗浄等の介助を行っております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつ等が必要な利用者も、夜間以外はトイレを利用し自力排泄を促しています。排泄記録を付ける事で定期的なトイレ誘導し『脱おむつ』を目指しています。	脱オムツに取り組み、排泄記録をつけながら排泄パターンを把握し、表情、態度などに気をつけて、適時にさりげなくトイレに誘導し、自力排泄を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	記録により排便状況を把握し、便秘の方には必要に応じた飲食物を提供し、献立や調理の工夫に努めています。利用者の体調に合わせて散歩・外気浴等の実施、冬期間では、室内での体操・ゲーム等、身体を動かす働きかけに取り組んでいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々に気持ち良く入浴して頂くため、本人の意向や体調を確認し支援しています。拒否をされる方に対し、言葉を選びながら促しております。足にむくみがある方には、状況に応じて足浴を実施しています。	個々の意向や体調を見ながら週2回～3回を目安に入浴を促している。無理強いはせず、時間をずらして声掛けをするなどの工夫をしている。保湿性のある入浴剤を使用し、足のむくみが強い人には足浴の支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣に応じて、その人なりに安心して気持ちよく休憩、睡眠ができるよう、定期的な寝具交換等、個々に合わせ配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の持病と服薬内容を把握し、症状の変化には主治医や家族に報告・相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の生活歴や日常の様子から、出来る能力を把握し発揮できる場に配慮しています。趣味活動がある方には、必要な準備の支援を行っています。		

グループホーム育成会 長生の望・灯・楽（灯ユニット）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	社会参加を心がけており外出支援を重点に支援しています。定期的にドライブ等に出かけており、本人の希望があれば買物などにも出かけます。	花見・紅葉の時期にはドライブに出かけ、希望があれば天候を見て気軽に買い物に出かけ、近くを散歩したり、畑の草取りをしたり、庭で外気浴をして日常生活に潤いと変化を提供するよう工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があれば小額を本人に渡し、買物の際には、自らお金の管理をしていただきます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望される時や、定期的に家族と連絡が取れるよう努めており、手紙の代筆なども頼まれます。遠方の家族には、定期的に連絡を貰えるように協力を促しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間である、リビングには季節の飾り物などを置くようにして、季節感を取り入れながら過ごしていただけるよう工夫しています。	対面式台所から利用者が見やすく声もかけやすい。リビングには花や利用者が作った雛人形が飾ってあり、生活感や季節感も採り入れたリビングで楽しく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間である、リビングにはソファが二箇所あり、それぞれお好きな場所で過ごして頂いています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具類は馴染みの物を持ちこむように働きかけています。出来るだけ家族の写真を飾るなど居心地の良い環境づくりを心がけています。	クローゼットと洗面台が設置された居室に、馴染みの家具や使い馴染んだ日用品を持ち込み、壁には利用者の作品や写真を飾るなど居心地良く過ごせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	センター方式の活用で本人の能力を把握し、安全であり必要最低限な援助により、自立した生活を送れるように工夫しています。		